

お医者さんに  
聞いてみよう



体調が優れない時などに漢方薬をうまく利用している人がいます。興味があるのですが、どんな漢方薬を選んだら良いのか分かりません。自分に合ったものを見つけるには、どうすれば良いですか？

漢方薬は一人一人の症状や体質などに合っていて十分に力を発揮します。また漢方薬は心も含めて体のバランスを整え、その人が本来持っている自然治癒力を高めるための援助をします。専門の医師はいかなる症状を訴える患者さんに対して、常に体のバランスなどのように崩れているかを漢方特有の物差しを使って診断していきます。

## 一度 専門医の診察を

### 生体を維持する3要素



さらに漢方では古来より、人間の体を「気・血・水」の3要素が体の中を巡ることによって体のバランスが整っていると考えられてきました(図)。「気」は目には見えませんが、生命活動を営む根源的なエネルギーと定義されています。その「気」が目に見える形で体の中を巡っているものに「血」と「水」があります。「血」は血液その働きを意味しており、末

漢方医学的な診断のことを「証」と言い、「陰陽」「虚实」「気・血・水」といったさまざまな「物差し」によって判断していきます。

陰陽とは中国の古奥哲学の考え方に由来し、あらゆる物を陰と陽の二の相対的なものとみなします。患者さんの状態も「陽証」は熱を主とした状態、「陰証」は冷え(寒)を主体とした状態を温考えます。実際の臨床では状態を温

めることで症状が長くなるかどうかを開きながら陰陽を判断します。

虚实は体のバランスを崩すさまざまな要因(ウイルス感染、心理的ストレス、不摂生など)に対する反応をみていきます。充実した状態をしている状態が実証、弱い反応をしている状態が虚証となります。体格など虚实が一致することが多いですが、必ずしもそうではありません。

《答える人》



貝沼 茂三郎さん

富山大付属病院和漢診療科長

- ✓ 漢方特有の物差しがある
- ✓ 「気・血・水」の状態を判断
- ✓ 同じ病でも違う薬を処方

めると症状が長くなるかどうかを開きながら陰陽を判断します。

梢まで栄養を届けられる働きをしています。また「水」は血液以外の無色の液体を指しています。「気」の異常としては気虚(倦怠感や気力・食欲の低下など)、気うつ(気持ちや沈む、喉の違和感、腹痛など)、気逆(冷えのほせ、動悸、不安感など)があります。また「血」の異常としては瘀血(肩こり、月経異常、色素沈着など)、血虚(皮膚乾燥、脱毛、こむら返りなど)があります。「水」の異常としては水滯(水毒、浮腫、目まい、耳鳴りなど)があります。

漢方特有の診察方法である舌診、脈診、腹診などを行いながら、患者さんの状態を察し、証に合った処方薬を決定していきます。

西洋医学は病名によって薬が決定しますが、漢方学の場合には同じ病名でも違う漢方薬が処方される場合があります(同病異治)。違う病名でも同じ漢方薬が処方されることがあります(異病同治)。

現在、8〜9割ぐらいの医師が実臨床で何らかの形で漢方薬を処方していますが、全ての医師が患者さんの状態を細に観察しながら処方しているわけではありません。漢方薬を処方されていてもなかなか自身の状態が改善しない場合は一度、漢方専門の医師の診察をお勧めします。

\* 関連文庫に掲載